

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月一回の会議で再確認し、具队的、個々の問題をどうして実践につなげている。	「地域社会につながる居場所作り…」の理念については来訪者の目にもふれ易いように玄関と各ユニットに掲示し共有と実践に繋げている。毎月8日に行う職員会議の席上、理念に沿った支援について確認し合い、具体的な活動に繋ぐようにしている。職員は理念の持つ意味を良く理解し、利用者に安心して気持ち良く日々の生活を送っていただくよう取り組んでいる。家族に対しては入居時にホームとしての理念に沿った支援の方針を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前庭の道路を通る、住民との挨拶や、花、野菜などを頂くなど、又地域コミュニティにも、働きかけを行っている。	開設以来区費を納め、区長と連携を取り地域との関係改善に取り組んでいる。日々の散歩の際には地域の人々と親しく挨拶を交わしている。新型コロナ禍が続き地域ボランティア等の来訪も自粛となっているが、代表者が各ボランティアとの日頃のお付き合いがあり、新型コロナの感染状況を見ながら「絵ハガキボランティア」「サクセス演奏の音楽ボランティア」「体操ボランティア」等の来訪を徐々に再開する意向を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	何らかの事情により、施設に入居できない家族に対して、困った時の後方支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、市に対しての報告のみで、ご意見を聞く機会がなく、職員及び、家族代表者にて、意見の集約を行って、サービス向上につなげている	例年、3ヶ月に1回対面での運営推進会議を開催しているが、新型コロナ禍が長引き現在も書面での開催が続いている。利用状況、職員状況、事故・ヒヤリハット、防災関係、行事計画等の報告を書面に纏め、家族代表、民生児童委員、広域連合職員等に届け、意見・助言を頂きサービスの向上に繋げている。そうした中、5月8日以降の5類移行を受け行政とも打ち合わせの上、新型コロナの状況を見ながら対面での会議開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍で、必要な情報は、メールにてやり取りできるが、顔を見ての、意見交換は、少ない。	市高齢者保健課等、自治体の関連部署に対し必要に応じて代表者が訪問し、様々な事柄について報告や相談を行い、連携を深めつつホームの運営に役立っている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応している。介護相談員の来訪も中断されたままになっているが、再開後は利用したいとの意向を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしなければならない事情がないし、月1回の研修にて再確認をしている。玄関の施錠は、防犯上の必要に応じて行っている。	方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は日中開錠され、夏場は網戸での対応となっている。そうした中、きめ細かな所在確認を行うことで安全確保に繋がっている。また、転倒危惧のある方がおり、家族と相談の上人感センサーを使用している。3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会に合わせ身体拘束の勉強会を行い、拘束に対する意識を高め支援に当たっている。	

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待の内容を理解しており、20年間1回も発生していない。小さい施設では、目が行き届いており、見過ごされることはないよう注意もしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政書士である、運営者が講義している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所段階で詳細な説明をし、改定等の場合も、事前に説明を行い、意見等を聞きおこなっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々職員が対応し、家族に対しては、運営者とのホットラインがあり、対応している。	家族の面会については新型コロナ蔓延中はガラス越しでの面会を行っていたが、現在は事前に連絡を頂き玄関で距離を取り短時間での対面面会を行っている。2週間に1回位面会に見える家族が多いという。新型コロナ禍が長引き家族会も中断されたままになっているが、コロナの様子を見ながら年1回、食事を兼ね総会を開きたいとの意向を持っている。そうした中、ホームでの利用者の様子は毎月発行される便り「すずらん通信」に一人ひとりの写真を添え、請求書に同封して届け、家族から喜ばれている。また、家族とは代表者、管理者、ケアマネジャーが決め細かく電話で連絡を取り合い、利用者の様子を知らせている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回と、個別に話し合いを行っている。	毎月8日に職員会議を行い、連絡事項、各種勉強会、意見交換等を行い、業務内容の向上に繋げている。また、8日が給料日になっており支給に合わせ毎月、代表者、管理者による個人面談が行われ意見を聞き、その中から運営に繋がられるものについては翌月の会議で提案している。キャリアパス制度があり、職員一人ひとりの目標に対する資格取得に取り組み、会社としても費用面の援助もしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度に則り行い職場環境の改善にも取り込んでいる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各人の希望におおじて、経費面も含め各種資格取得援助を行っている。			

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍につき、中止。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族同伴にて、ゆっくり、時間をかけて、数回にわたり行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初から、入所ありきではなく、話し合い等をおこない、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望を聞き必要な場合は、他の施設の紹介等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心の通えある介護を基本に、より家族的な雰囲気の中で暮らす工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に必要な情報を送り、家族関係を大切にしながら、本人の満足度追求の為、協力関係を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、支援に制限がある。	新型コロナ禍の中、友人、知人の面会は自粛しているが、過去に入居されていた利用者の家族より季節の野菜を差し入れていただいたり入居者の紹介もいただいている。理美容については2~3ヶ月に1回、馴染みの美容院の来訪がありカットしていただいている。また、暑中見舞いと年賀状を写真入りで作成し、家族あてに郵送し喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士仲良く、又他の人の世話を見てくれる人もおり、施設内では、全員参加の行事を、多くとりいれている。		

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、よく遊びに来てくれたり、又、新規入居者を、紹介されたり、長い付き合いもあり、時には相談に乗ったりしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホームは、比較的時間に余力があり、じっくり話し合いがおこなわれている。	日々の支援の中できめ細かく優しく接するようにし利用者との良好な関係づくりに繋げている。そうした中、意思表示の難しい利用者が半数位おり、問い掛けに対する表情や仕草より希望を受け止め、意向に沿えるようにしている。日頃の支援の中で気づいた言動等は介護記録にとりまとめ、職員間で情報を共有し、利用者の思いに沿えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りを行い過去の生活歴等参考にしながら、現在につなげている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個性を重視し、能力におおじて、活動している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議、担当者会議、運営推進会議等を活用し、できるだけ家族の出席を求め、現状に合った介護計画を作成している。	職員はユニット毎に全利用者の状況を把握するようにしている。入居時に家族より利用者の様子を聞き、ホームでの暮らし方についての希望も聞いている。月末に行うカンファレンスで意見を出し合い。モニタリングもを行い、ケアマネジャーと計画作成担当者がプランを作成している。家族とは定期的に連絡を取り合い、様子を連絡し、希望も聞いている。基本的に6ヶ月～1年での見直しを行い、6ヶ月でモニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の引継ぎ、個別記録をとうして情報の共有を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉関係のニュース等情報の収集を行うとともに前向きに検討している。			

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は、把握しているが、コロナ禍で安全第一に生活せざるを得ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、かかりつけ医の往診を依頼している。病院によっては、家族の希望とかけ離れた対応がなされるところがある。	入居時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。現在、全利用者がホーム協力医の月1回の往診で対応しており、24時間対応が可能となっている。ユニット毎に准看護師が常駐しており、利用者の健康管理と医師との連携が図られている。歯科については月1回の往診で対応し、歯科衛生士も共に来訪し、口腔ケアと同時に職員の指導もしていただき口の健康にも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師を通じて、協力医に報告又は指示を受けて適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一部病院において、相談室等と医師との乖離があるが、概ね良好関係は、維持されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に必要な説明が行われている。必要な資料（終末期意向確認書等）あり共有している。	重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明し、家族の意向を確認の上、意向確認書を頂いている。入浴や食事を摂ることが難しい状況になり終末期に到った時には、家族、医師、ホームで話し合いの機会を設け、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。1年以内に2名の看取りを行い、新型コロナ禍の中、家族には居室にて最期の時を共に過ごしていただき、また、お気に入りの洋服に着替えていただき、希望の曲をギター演奏で流したりするなど、心のこもった看取り支援に取り組んでいる。それらの対応について家族より感謝の言葉を頂いている。また、職員会議の席上看取り勉強会を行い、心構え等を学び、看取り支援に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	広域茅野消防署の協力を得て、勉強会をおこなっている。		

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策のマニュアルがあり、地域に対しては、協力を、よびかけている。	現在、消防署と防災訓練実施日の打ち合わせをしており、消防署参加での防災訓練実施を予定している。火災、水害、地震想定避難訓練を予定している。合わせて消火訓練、通報訓練を予定している。また、抜き打ちでの避難訓練を予定しており、何分でも外へ出られるかの確認もしたいとしている。更に、緊急連絡網の確認訓練も抜き打ちで実施する意向を持っている。備蓄として「水」「米」「缶詰」「介護用品」等が1ヶ月分用意されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当然のことであり、人格尊重は、基本理念でもある。	一人ひとりの利用者との対応の中で気持ち良く過ごしていただくように職員間で話し合いを重ね、一人ひとりに合った支援に繋げている。言葉遣いには特に気配りをし、親しみを込め優しく丁寧に話しかけるようにしている。呼び掛けは、名前を「さん」付けでお呼びしている。また、入室の際にはノックと声掛けを忘れないよう徹底している。更に、年2回、代表者が講師となり事例を上げながらプライバシー保護に関する勉強会を行い、意識を高め支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傍に寄り添いたわいもない話の中で、本当の想いを探り当て支援に結び付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の決まりの中、本人の希望を重視し、支援するように、心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ちょっとしたことは、職員が関わり、2から3月の間に、美容師がかかっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食手作りであり、希望に沿うよう努力している。	手作りの料理を心掛け、でき立ての料理を温かいうちにおいしく食べていただくようにしている。自力で摂取できる方が三分の二、全介助の方が若干名という状況である。献立は過去に作ったメニューを参考に利用者の希望を取り入れ、近い日のメニューと重ならないよう意識し、調理している。お彼岸には「おはぎ」、ひな祭りには「お寿司」、正月には「おせち風特別料理」等をお出しし、季節感を感じて頂き、おやつには「ホットケーキ」等を手作りして楽しんでいる。また、利用者のお手伝いは力量に合わせ、下準備、テーブル拭き、後片付け等に参加していただいている。	

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の、食事量等の確認を行い、記録にも残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師指導の下、特に念入りに行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の記録により、一日のパターンを把握しており、早めの誘導を行っている。	全利用者が一部介助という状況であるが、トイレでの排泄に心掛けている。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、介護日誌の中の排泄表も参考に、起床時等の定時の声掛けと合わせて早め早めにお誘いをし気持ち良く過ごしていただくようにしている。排便については3～4日無い場合にコントロールを行い、お茶、スポーツドリンクを中心に1日1,000cc以上の水分摂取に取り組み排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	准看護師指導の下、勉強しており、問題ない限り戸外へ誘導している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、指定日があり、個々の入居者の実情に応じて、臨機応変に対応している。	全利用者が何らかの介助が必要な状況で入浴拒否の方もおらず週2回の入浴を行っている。また、希望で週3回入浴される方がいる。入浴後はリンゴジュース、ブドウジュース等甘い飲み物を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間熟睡を基本に、昼間の対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指導の下、薬については、よく理解している。変化があれば、すぐ対応出来る様、体制ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の内容におおじて、対応しており、畑仕事や花作りにも、参加してもらい、お酒の好きな人には晩酌もある。		

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出は控えているが、ホームの周りの散歩は行っている。	外出時、自力3名、歩行者、手引き5名、車いす使用5名の状況である。コロナ禍が続き外出が難しい状況が続いているが、天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、広い中庭に出てベンチに腰掛けお茶や食事を楽しんでいる。また、中庭の畑ではジャガイモや夏野菜が栽培されており職員が行う農作業を見学している。そうし、た中、郊外で宿泊施設を運営されている家族があり、ドライブを兼ね外出する予定を立てている。合わせてお弁当を持ち、茅野市のスポーツ公園に出掛ける予定も立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人にお金は所持させていない。家族からお金を預かっていることは伝えてあり、欲しい物は、何時でも手にはいるよう、手伝っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で、電話は、主流をなしており、又職員指導の下に、暑中見舞い、年賀状など作成している。家族からの手紙も多くなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からの、光と新鮮な空気、大きな窓からは、四季を感じられ、いやなにおいは一切感じられず余分な刺激はない。	ハヶ岳連峰の山々を望む自然豊かな環境の中、季節を感じながら日々の生活を送っている。ホーム内は季節の飾り付けが施され、行事の際には玄関先にも綺麗な飾り付けがされ、雰囲気盛り上げている。また、ユニット間に設けられた広い中庭には家庭菜園やテーブル、イスが設けられ、寛ぎのスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナー、ウッドデッキ、中庭などで、よく話声を聞き、談笑している姿がある。一人で、ベンチにもたれかかっている姿も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、本人の希望する物や、趣味の物など、できるだけ多く持参して頂けるようお願いしている。	各居室には洗面台と大きなクローゼットが備えつけられており、プライバシーに配慮された暮らし易い生活空間となっている。また、入り口には名前で示された表札が掛けられている。持ち込みは自由で、家族と相談の上、使い慣れた家具が置かれ、好きな人形、自分の作品、家族の写真等に囲まれ、思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	きめ細かいわかり易い案内板や掲示板を作り、有効に活用できる工夫をしている。		